The Kashiwara Mihariban
かしわら見張り番
2010 7 no.10

発行所 かしわら見張り番

代表 はまうら佳子
〒582-0026
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502
FAX.072-977-8782

疑惑深まる家庭ゴミ入札

“前科”ある業者が落札

回収放棄し苦情殺到

一昨年 鎌倉市で

今回の家庭ゴミの収集の入札に、新規参入の指名業者として参加し相当数の地域を落札した(株)大紀は、ゴミ回収を放棄して問題を起こした前科のある業者だ。こんな業者がなぜ指名入札に参加できたのか。この業者は岡本市長の有力な後援者でもあり、入札制導入の疑惑はますます深まっている。

古都・鎌倉で前代未聞の“ゴミ騒動”が発生したのは、平成二十年も暮れの十二月。市内のビン、空き缶など資源ゴミが回収されず、いたるところで山積みされる事態となった。

人口約十七万人、七万世帯の鎌倉市は、日本有数の観光都市であり、高級住宅地としても知られる。町中がゴミ屋敷化することなど許されない。「まちがひっくり返ったような騒ぎ」になったのは当然で、マスコミでも大きく報じられた。

この騒ぎを引き起こしたのが、今回、柏原市で家庭ゴミ収集を落札した大紀である。同社は柏原市にある建設会社だが、鎌倉市が入札にした資源ゴミの回収業務を落札、平成十七年度から委託契約で業務を行なっていた。ところが、実際の業務は鎌倉に設けた営業所に丸投げしていたにもかかわらず、報酬をきちんと支払わなかったのだ。

あまりにデタラメなそのやり方に怒った営業所の従業員が業務をボイコットしたため、大騒ぎに発展したというのが事の真相である。市はパニック状態となり、二カ月で一千七百件にのぼる苦情が殺到した。

苦情をまとめた資料。当初から市民の評判が悪く、ついにはゴミの回収を放棄するという事態を起こした業者が柏原市の家庭ゴミ収集を落札した

柏原市顧問弁護士、Y市議らも関与

被害を受けた鎌倉市は、同社との契約を解除し事業費の支払いも凍結した。

ところが厚顔にも、同社は鎌倉市役所を訪れて、その支払いを求めた。問題を起こした反省もなく、恫喝に近い要求だったと今でも語りぐさになっている。その際、国会議員の秘書、柏原市の顧問弁護士と並んで、Y柏原市議も同席している。この市議は同社社長の娘である。

「(ゴミの入った)コンテナが3週間も放置されたまま」「コンテナが歩道に横転しており歩行者が危険だ」

(株)大紀が、鎌倉市でカン・ビン回収を放棄した「鎌倉事件」では、1700件にのぼるこんな苦情が市に殺到した。

この事態に鎌倉市では、緊急対策として急きょ鎌倉市資源回収協同組合等と委託契約をし、さらに市の職員もフル稼働で回収にあたった。

問題多い業者だが、市長の大事な後援者

同社は、当初から市民の評判も悪く「(回収した)ビンを落として、掃除もしない」「回収時間がめちゃくちゃ」「回収車の後ろのドアを開けっ放しで走っている。ぶつけられたのではないか」などの苦情があった。そのため、平成19年9月28日の鎌倉市議会でも議題となった。

ある議員が大紀について市に質したところ、担当課長は「大阪の方ではかなり長い期間一般廃棄物の収集運搬をしている会社…と聞いています」と答弁している。大紀は建設業者であって廃棄物処理業者ではない。つまり、入札にあたって虚偽の申請をしていたわけだ。

さらには、本紙既報の通り東山地区で長年にわたって不法投棄を繰り返してきたK社の同族業者。こんな問題だらけの業者だが、岡本市長にとっては大事な後援者なのだ。

虚偽申請して業務を落札

「ピンハネしか考えていない」

この“ゴミ騒動”は鎌倉市に被害をもたらしただけでなく、業界にも激震が走った。日本中の回収業者が何十年にわたって築いてきた信用を一瞬のうちに崩してしまったからだ。

アメリカ、ドイツ、フランスといった先進諸国では収集業者が起こすストライキは珍しくない。スト突入によって町中にゴミの山ができることがある。

日本中の業者の信用傷つけた

これらの収集事業者は公務員で、強大な組合をバックに自分たちの要求を通すために強行手段に訴えるのだが、日本の場合は大都市を除き、ほとんどが少数の従業員数で経営する零細事業者だ。少ない人手をフル活用し、役所からの厳しい管理監督に耐え、猛暑も厳寒も戸外での実務。決して羨ましがられる業種ではないが、黙々と業務をこなしてきたのである。

明るい挨拶、清潔な服装、スムーズな作業―。日本国内の家庭ゴミ収集システムは、近来稀なる行政と零細事業者とのコラボレーションなのだ。もちろん、ストなど論外だ。

ところが、大紀が鎌倉市で起こした回収放棄という前代未聞の“ゴミ騒動”は、先人たちが営々と築いてきた信用を傷つけたのである。しかも入札にあたって「大阪で長く一般廃棄物の収集運搬をやってきた」と虚偽の申請までしていたのだから悪質だ。

当時の事情を知る地元の関係者からは「三年半やって何のノウハウも身につけないで撤退していった」と酷評されている。現場の従業員の管理もせず、雇用保険もかけていなかった。「ビンはねすることだけ考えていて、従業員への福利厚生は、はなから頭になかった」と断じる人もいる。

こんな業者では柏原市民も不安

随意契約から指名競争入札へ契約方式が変わったことに伴い、ゴミ収集を担当する業者が入れ代わり、トラブル続発となった「流山事件」について前号で報じたが、来年四月一日から柏原市でも同じ事態が起こらないという保証はないのだ。「あんないいかげんな業者にやらせたらまた同じことをしでかす」(前出の関係者)という指摘もある。

トラブルが発生したとき、問題業者を指名した市は責任をどう取るのか。

柏原市が今回、強行した家庭ゴミ収集業務の入札に、この大紀は堂々と指名業者として名を連ね、相当数の地域を落札した。同社は建設業者であり、鎌倉市での“前科”があるにもかかわらず、市はなぜ指名業者としたのか。加えて、この業者は岡本市長の有力な後援者である。この疑惑に、市は明確に答えていない。

家庭ゴミ回収運搬業務の落札結果

地区	落札業者	くじ順
【1地区】国分本町1丁目外	橋本清掃(株)	1
【2地区】本郷1丁目外	(株)大紀	2
【3地区】旭ヶ丘1丁目外	蓬莱谷清掃(株)	1
【4地区】清州1丁目外	(株)大紀	6
【5地区】堂島外	近畿クリーン	5
【6地区】上市1丁目外	(有)浜浦クリーン	6
【7地区】石川町外	蓬莱谷清掃(株)	1

＊グレー部分が新規業者

7地区のうち5地区を新規参入3社が落札。現行業者は、4社のうち2社がそれぞれ1地域を入札しただけで、全体の7割以上が新規となった。

新規業者はもともと土建業者で入札に慣れているうえ、このくじ棒に対して疑問の声がかねてからあるが、市はくじ引き方法変更の要望を拒否し続けている。